

経 済 部 観 光 課

1 観光振興対策

(1) 米子市観光協会事業活動に対する助成

米子市の観光と特産品の振興を図るため、米子市観光協会の事業活動への助成を行うとともに、その実施について協力した。

ア 観光客誘致宣伝事業

(ア) 山陰・四国三角ルートキーワードラリーの実施

期間 平成29年6月16日～平成30年2月4日

内容 高知市観光協会、松山観光コンベンション協会と連携して、各エリアの観光施設等でキーワードを設定し、一つの言葉（6文字）を完成させて応募すると抽選で宿泊券や特産物を進呈するラリーを実施

応募数 228人

(イ) 米子市皆生温泉観光宣伝隊の派遣

期日 10月11日～12日

派遣先及び内容

広島県・岡山県内の各信用金庫（備北・吉備・水島・しまなみ・呉・広島）を訪問し、皆生温泉と周辺の観光地のPRを行い、各金庫の親睦旅行や年金友の会の旅行先として、皆生温泉を取り上げてもらうよう努めた。

(ウ) 「かながわ物産・観光交流展」の参加

期日 9月29日～10月1日

会場 JR川崎駅東口地下街Azalea（アゼリア）

内容 神奈川県観光協会と連携し、米子鬼太郎空港、伯耆国「大山開山1300年祭」イベントの観光パンフレット配布、山陰の特産品（干物、らっきょう、砂丘長芋、大山ハム、大山そば、大山抹茶スイーツ等）の販売

(エ) 米フェスタ・JAふれあいまつり、せいぶの農と食まつりと連携して、「農と食のフェスタinせいぶ」を開催。

第6回ネギ来まつり&米子駅まつりの開催

期日 10月21日・22日 来場者 約40,000人

(オ) 関西地区特別宣伝事業

日本中央競馬会阪神競馬場内において、米子ステークス開催にあわせて中海ふるさと物産振興会と共同で観光宣伝と物産コーナーを開設。

期日 6月17日・18日

イ 情報発信事業

(ア) 報道機関等を利用した観光宣伝

- a テレビ・ラジオ番組に出演し、皆生温泉や各種イベント、特産品等の紹介を行った。
- b 雑誌・新聞の取材に対応した。

(イ) ホームページによる情報発信

観光協会のホームページ「米子観光ナビ」の観光動画や公式Facebook、Instagramにおいて、米子市の観光PRを行った。

「米子観光ナビ」閲覧数 618,076ビュー（平成29年1月～12月）

公式Facebookページ「いいね」 3,072人（平成30年3月現在）

公式Instagram「フォロワー」 129人（平成30年3月現在）

ウ 各種イベントの開催

観光客誘致と地域活性化を図るため、イベントの実施または開催協力を行った。

(ア) 米子桜まつりを開催 期間 3月31日～4月14日

加茂川・中海「さくら船」の運航

(イ) 米子つつじまつり 期日 4月29日・30日

(ウ) 再生神話の郷マラニックの実施 期日 6月11日

(エ) 皆生温泉海水浴場を開設 期間 7月8日～8月27日

(オ) 全日本トライアスロン皆生大会 期日 7月16日

(カ) 加茂川まつり 期日 8月23日

(キ) サイクルカーニバル in YODOE 悪天候のため中止

(ク) 美水の郷 秋麗ウォーク 期日 9月23日

(ケ) 皆生・大山SEA TO SUMMIT 期日 5月20日・21日

エ 観光商品造成事業

(ア) 米子市内宿泊プラン「創作神楽」手配

期間：平成29年4月～平成30年3月

利用数：10件/266人（前年度3件/58名）

(イ) 「大人達の社会見学」

期間：平成29年4月～平成30年3月

利用数：110件/2,048人（前年度107件/2,105人）

オ 地域活性化対策事業

米子下町観光ガイド

ガイド案内件数 111件 1,157人（前年度116件 1,210人）

カ 指導育成・研修事業

優良従業員の表彰

期日 5月26日

優良従業員表彰 20年勤続 9人 10年勤続 35人

キ 首都圏対策事業

(ア) 首都圏観光大使任命式

期日 6月24日 場所：稲田屋 パレスビル店

1名の新規大使を任命。また、今後「米子ふるさと観光大使」に改称が決定。

(イ) 首都圏・四国・山陰観光交流会の開催

期日 6月24日 場所：稲田屋 日本橋店 参加者9人

(ウ) 第1回アジア国際ユースサッカーIN鳥取(クラブセブンティ関連事業)

期日:11月24日~26日 場所:チュウブYAJINスタジアム

日韓高校生サッカー交流IN大山の5周年を記念して開催された。

(2) 観光案内業務

ア 観光案内

米子駅構内に米子市観光案内所を設置し、観光案内業務を行った。

◇年間利用状況

宿泊案内	観光案内	交通案内	地理案内	その他	合計
415件	5,333件	6,391件	1,192件	4,404件	17,735件

イ 米子市国際観光案内所移設事業

JR米子駅構内に設置している観光案内所を、国際観光案内所として、インバウンド対応等、案内機能の強化を図って、同じく米子駅構内の中で移設した。

移設事業費 2,462,400円

(3) コンベンションの誘致

本市へのコンベンション誘致を促進するため、(財)とっとりコンベンションビューローに対し、運営費、大会開催支援補助金等の交付を行い、その活動を積極的に支援するとともにその活用を図った。

(大会開催支援補助金交付実績)

件数	参加者数	延宿泊者数	交付額 (米子市負担額)
29件	7,693人	10,077人	12,076,602円 (6,038,301円)

(4) 観光関連団体との連携

日本観光協会、山陰観光連盟、鳥取県観光連盟、中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会等の観光関連団体との連携を密にし、本市観光振興を図った。

(5) 特産品、観光土産品振興対策

特産品パンフレット「米子ええもん噺」の配布に協力し特産品の販路拡大を図った。

(6) 郷土芸能の保存、育成

米子がいな太鼓、米子がいな万灯の保存、育成を図った。

(7) 大山の美化、遭難防止活動等への協力

大山国立公園協会、大山の美化を推進する会、大山遭難防止協会等を通じて、大山の美化、自然保護等と遭難防止活動に協力した。

(8) 皆生温泉にぎわい創出事業

ア 観光宣伝事業の推進

皆生温泉旅館組合等と連携し、中京、関西、山陽方面での観光宣伝事業を行うとともに、旅行雑誌、新聞などへのPR広告の掲載を行った。

また、皆生温泉PRチラシやイベント特集チラシなど宣伝ツールを作製するとともに、各旅館のポータルサイトの役割を担う旅館組合の公式ホームページを活用し、皆生温泉の情報発信に努めた。

イ インバウンド事業の推進

来訪者が増えている外国人観光客をさらに拡大するため、受入れ態勢の整備充実を目指した。

(7) 外国語ツールの作製

皆生温泉を紹介する外国語版タウンマップを作製した。

(4) 外国語サインの充実

米子市観光センターのバス乗降場に5面体の案内版を作製。乗り場（行先）を日本語と英語で表記し、「ようこそ皆生温泉へ」等の歓迎フレーズも入れた。

ウ 街並み活性化事業の推進

皆生温泉の活性化策として、引き続き、既存の土産物店の「皆生横丁きないや」をはじめ、文化施設の「素鳳ふるさと館」、「手しごとギャラリーkaike」、足湯施設の「潮風の足湯」、「花風の足湯」等の散策スポットを活用し、街歩きが楽しめる温泉街の創出を推進した。また、皆生温泉の名物を作るため、オリジナル土産物の試作開発を行った。

エ にぎわいイベントの実施

皆生温泉 夏休みちびっこ広場の実施（7月21日～8月27日）

夏休みの子ども向けのイベントとして、期間中毎日、午後8時から9時まで皆生温泉海水浴場特設ステージで開催し、ミニ打ち上げ花火や当てくじなどでファミリー層の集客を図った。

オ 周辺観光地タイアップ事業

とっとり花回廊《冬のイルミネーション》見学プランの実施、金田川ほたるバスの運行、足立美術館直行バスの運行等の周辺観光地とのタイアップ事業を推進し、皆生温泉への誘客を促進した。

(9) 皆生温泉圏域観光拠点事業

米子市観光センター内にエコ・スポーツツーリズムを推進するためのツアーデスク機能をもった「皆生ツアーステーション」を設置し、ホームページ開設等による情報発信や皆生温泉の誘客につながるツアー情報の調査等を実施した。（皆生温泉旅館組合に業務委託）

(10) 広域観光の推進

ア 国立公園「大山」を望む7市町村及び鳥取県西部総合事務所で構成される「大山山麓観光推進協議会」において、広域的な観光振興策を推進するため、大山山麓エリアにおける優良な周遊滞在型観光地の形成を図ることを目的に、官民連携して各種事業を実施した。

構成自治体 米子市、境港市、南部町、伯耆町、日吉津村、大山町、江府町、鳥取県西部総合事務所、日野町（オブザーバー参加）、日南町（オブザーバー参加）

実施事業 パワードby大山DMO設立基盤構築事業
(大山パワーブランド化推進事業、大山エコトラックシステム構築事業、西部圏域版周遊バスと情報提供アプリによる周遊促進事業)

イ 「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」の設立（米子・境港・安来・松江・出雲）

中海・宍道湖・大山圏域の総合的かつ一体的な観光振興を図ることを目的に、平成29年7月14日に圏域のDMO組織として「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」が設立された。

境港寄港大型クルーズ客船受け入れ事業として、岸壁において観光案内及びおもてなしイベントを実施したほか、圏域の観光を紹介する英文ホームページ「A TRIP TO THE HEART OF THE SAN' IN REGION」を公開するなど、圏域のインバウンド対策や国内での観光プロモーションなどに取り組んだ。

会員：中海・宍道湖・大山圏域市長会、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会、中海・宍道湖観光協会会議

ウ 中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会

中海・宍道湖・大山圏域の観光振興を推進するため、鳥取県と島根県の行政、経済団体、観光協会及びNPO等が連携、協働して圏域全体の事業を実施した。旅のポータルサイト「神々のふるさと山陰」において、圏域の観光情報の発信を行ったほか、着地型旅行商品作成のための人材育成・交流事業の実践の場と位置付けた研修会及び商品の魅力向上を目指した個別相談会を実施した。

エ 大山・中海圏域のエコツーリズム、スポーツツーリズムの推進

当地域の持ち味を生かした「新たな観光魅力づくり」と、環境保全と経済活動を両立させた「持続可能な観光地づくり」を実現するため、平成19年から取り組んでいる「エコツーリズム」について、「皆生海岸海上散策カヤック」等のツアー案内や受付を皆生温泉と大山寺のツアーデスクで継続して行ったほか、全日本トライアスロン皆生大会や皆生・大山SEA TO SUMMIT、再生神話の郷マラニックなどのスポーツツーリズムに取り組み、誘客を図った。

オ 伯耆国「大山開山1300年祭」に向けての取り組み

名峰「大山」が平成30年に開山1300年を迎えるに際して、官民が一体となって、歴史や文化、自然、食などの「大山」の多様な魅力を磨き上げ、国内外へ情報を発信するなど「大山」のブランド化を推進する。県民の誇りの醸成と賑わい創出に繋げるために実施する伯耆国「大山開山1300年祭」の取り組みを伯耆国「大山開山1300年祭」実行委員会で連携して取り組み、事業を推進した。

カ 日本遺産の取り組み

大山を中心とした周辺地域が「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」のタイトルで認定された日本遺産の中で米子市の構成文化財は尾高道、旧加茂川の地蔵となっており、認定市町等で構成される「日本遺産大山山麓魅力発信推進協議会」に参画した。また、平成29年7月1日・2日に京都府精華町で行われた「日本遺産サミットin京都～日本遺産観光見本市～」へのブース出展に参加した。

(11) 第44回米子がいな祭の開催

「がいな太鼓」、「がいな万灯」、「やんちゃYOSAKOI」、ガйнаウォーターファイト、大花火大会等のイベントを開催し、地域振興を推進するとともに、観光イベントとして市内外からの誘客を図った。

期日 7月29日・30日 人出 220,000人

(12) 皆生・大山SEA TO SUMMITの開催

シーカヤック、自転車、登山の3種目で海岸から山頂を目指す環境スポーツイベントを、モンベル社、鳥取県、米子市、大山町、日吉津村によって、皆生海岸～大山山頂をフィールドにして開催し、圏域の魅力を広く全国へ発信した。

期日 5月20日・21日 参加者 95組 176人

(13) 国際定期便の利用促進

米子鬼太郎空港と海外を結ぶ国際定期便の米子ソウル便と米子香港便の2路線について「国際定期航路利用促進委員会」を通じ、両路線の利用促進活動を行った。

(14) 地域コンテンツ情報発信事業

「まんが王国とっとり」の取り組みを推進し、ポップカルチャーイベントの開催を支援したほか、マンガ・アニメなどを活用して地域振興に取り組む団体、事業者等と相互に連携し、本市で開催されるイベントを集約させたイベント「ヨナゴワンダー！」を設定して、本市への誘客と賑わい創出を図った。

また、歩数計を活用したウォーキングイベント「よなご歩き愛です(ヨナゴアキメス)」を「農と食のフェスタ」と同日に開催し、市内中心市街地周辺の回遊性向上を図った。

ヨナゴワンダー！総来場者数 64,470人(うち、よなご歩き愛です参加者数 139人)

(15) メディア芸術文化創造事業

電信柱にポップカルチャーを活用したイラスト看板を掲示し、通りのイメージをより華やかにすることでイメージアップを図り一層の賑わい創出に取り組むため、電柱@アートプロジェクトを実施した。

設置場所 法勝寺町商店街及び元町通り商店街内 設置箇所 11箇所(新規7箇所)

また、合わせて皆生市民プール施設の壁面にも公募によるイラストを掲示した。

(16) 米子市ロゴマーク・イメージキャラクターの活用

ア イベント等への派遣

ヨネギーズの着ぐるみを各種イベントに64回貸し出した。

イ 印刷物・キャラクターグッズとしての活用

米子市が発行する各種印刷物や職員の名刺・名札に活用されているほか、市内事業者、市民などに合計47回活用された。

ウ その他の活用

(ア) 昨年に引き続き、職員の福利厚生とヨネギーズの知名度アップを目的に作成していた通称「ヨネギーズポロシャツ」を福祉の店おおぞらから販売されるように調整を行った。また、新たに作業着も作成した。

(イ) ヨネギーズの知名度アップなどを目的にマスキングテープを作成した。

(ウ) 平成26年から(株)中広と連携し、同社発行のフリーペーパー「こはく」に、「ヨネギーズの月刊よなごプラス」と題したスペースを設け、ヨネギーズのPRを兼ねた本市からの情報発信を毎月実施した。

(17) 地域おこし協力隊による情報発信

総務省の地域おこし協力隊制度を活用し、3大都市圏から移住してきた隊員3人による情報発信拠点兼観光案内所「米子情報局どげな？」を、本市中心市街地DARAZ CREATE BOX内に平成28年10月にオープンした。SNSと本市に根付いてきたポップカルチャーを活用し、主に首都圏を対象とした情報発信を行い、加えて自主イベントの開催や各種交流事業への参画等を行った。(平成30年3月末で任期満了)

ア 首都圏等での隊員による情報発信活動件数 延べ61件

イ 取材、イベント等の対応 196件

※うち、地元メディア等へのレギュラー出演 5本

ウ 観光案内人数 1,275人

エ トートバッグ等のノベルティの作成

オ ぶらり城下町さんぼ等のパンフレット作成

(18) 宝くじスポーツフェア「ドリームサッカーinよなご」の開催

宝くじの社会貢献広報事業の一環のイベントとして、米子市やSC鳥取を中心として実行委員会を立ち上げ、サッカー元日本代表選手で構成するドリームチームと地元選抜チームとの対戦をはじめ、少年少女サッカー教室などのスポーツイベントを実施した。

期日 11月4日・5日 会場 チュウブYAJINスタジアム

指導者クリニック参加者 24人

少年少女サッカー教室参加者 18チーム 183人

ドリームゲーム ドリームチーム（元日本代表選手）対米子市選抜メンバー

観客動員数 3,600人

(19) トワイライトエクспレス「瑞風」に対するおもてなし

米子市観光協会、皆生温泉旅館組合等と連携し、地元郷土芸能団体の演奏等のおもてなしイベントを実施した。

期日 6月19日、8月3日、9月14日、10月2日、10月9日（計5回）

場所 JR米子駅

(20) プレ山陰デスティネーションキャンペーン

ア 全国宣伝販売促進会議の開催（8月23日）に合わせ、米子市ホテル旅館組合、皆生温泉旅館組合、米子市観光協会と連携し、以下の取り組みを実施した。

- ・皆生温泉旅館組合、寿製菓お菓子の壽城の協賛を得て、試食試飲会を実施
- ・大人達の社会見学をはじめとした観光商品等をPR
- ・米子市観光協会による「冷やし足湯」のおもてなし
- ・会議終了後に駅前周辺の飲食マップを会場前に配布

イ プレ山陰DC用に作成された観光商品素材集に本市の情報を掲出。

2 観光施設の整備及び管理

(1) 米子市観光センター改修工事

観光客や市民の利用を増やし、皆生温泉のにぎわいを創出することを目的に、地方創生拠点整備交付金を活用して、米子市観光センターの改修工事を行い、観光客等の立ち寄る滞留拠点施設としての利便性及び機能強化を図った。（リニューアルオープンは平成30年4月1日）

ア 改修の概要

(ア) 外国人観光客や高齢者、障がい者など、誰もが利用しやすいよう、エレベーターを新設し、1階、2階のトイレを和式から洋式に改修。

(イ) 宿泊客や市民の利用向上を図るため、2階の多目的ホールについて、防音のためのサッシ交換、照明設備の改修をしたほか、老朽化した電気設備を改修し、館内を明るくしてイメージアップを図った。

イ 工期：平成29年9月～平成30年3月末

ウ 工事費：約1億800万円

(2) 米子市観光センターの管理運営業務

ア 山陰観光の拠点として、昭和58年4月15日から利用開始。平成18年度から指定管理者制度を導入し、引き続き皆生温泉旅館組合に管理運営業務を委託している。皆生温泉の観光案内、旅館のあつ旋、各種集会室の使用許可、バス発着場など観光客及び地域住民の幅広い利用を図った。

イ 年間利用状況（テナント、広告看板、バス停利用を除く）

(ア) 観光案内 15,108件、55,470人

(イ) 施設利用

区分	多目的 ホール	会議室	料理 研修室	和室	第1展示 ホール	第2展示 ホール	第3展示 ホール	合計
件数	196件	449件	6件	93件	365件	122件	365件	1,596件
人員	5,470人	4,200人	61人	1,090人	80人	2,620人	1,270人	14,791人

※米子市観光センターの改修工事に伴い、多目的ホール、会議室等の貸出しは中止し、素鳳ふるさと館は休館、手しごとギャラリーKaikeは仮店舗に移転した。

ウ 米子市観光センター指定管理委託先 皆生温泉旅館組合

指定管理委託料 3,049,942円

(3) 米子コンベンションセンター管理運営業務

ア 米子コンベンションセンター（米子国際会議場を含む）を鳥取県と米子市が共同で管理運営を行い、利用者への応接や利便性の向上に努めた。

イ 米子国際会議場指定管理委託先 公益財団法人とっとりコンベンションビューロー

指定管理委託料 60,920,240円

[米子国際会議場利用状況]

催し 物件数	集 会			展 示 会	音楽・芸能	その他	計
	大会 式典	講演会 説明会	会 議	展示会 見本市	0件	22件	121件
	6件	75件	7件	11件			

利用日数 201日 稼働率 66.3%